

令和7年度 児童朝会 講話

■令和7年 12月1日 No.19「かなもじ10」

12月になりました。本校でも少し前にインフルエンザが流行りましたが、世間一般ではものすごく流行っていますので、換気、手洗い、うがいなどをしっかりと、風邪などひかないようにして、今年残り1か月を元気に過ごしていきましょう。

「今週のいいとこ見つけたよ」も主体的清掃の光景からです。洗面の掃除はもう定番になってきましたね。排水溝のぬめりもとれて、ピカピカに磨かれています。前回、落ち葉集めと、床や棚などの拭き掃除、ぞうきんを使ってねとお願いしたところ、ご覧のように、雑巾がけをしてくれる児童がものすごく増えまして、毎日のように2階、3階の廊下はピカピカになってきました。そして、落ち葉



も毎日のように桜の木から落ちるのですが、こちらも毎日掃き集めていただいています。本当にあり

がとうございます。

そして、この主体的清掃にニックネームをつけようと企画したところ、多くの児童から意見をちょうだいしました。ポテトそうじ、ピカピカそうじなどかわいい名前の応募もありましたが、一番票を集めたのは、パッケン(**proactive cleaning**)そうじでした。ということで、主体的清掃の愛称はパッケン掃除といたします。今後ともよろしくお願いします。

さて、かなもじのお話しいよいよ今日が最終回です。いろはうたは、柿本人麻呂がつくった説をとり、彼が罪も無いのに地方にとばされて、そこで生涯を閉じてしまいます。そのくやしさを多

くの人に知ってもらいたいということで、いろは歌の中に、うらみを書いた暗号を埋め込んだのです。どうよめば、その恐ろしい恨みが浮かび上がってくるのでしょうか？

みなさんの推理もなかなかのものでした。語尾だけをひろって「しす」という言葉を導き出したのはすばらしいことです。その発想も大変良いと思います。惜しかったです。単純に語尾だけを拾うのではなく、7文字ごとに読んでいくと「とかなくてしす」となります。とか=罪 といういみなので、これは「私は、罪もないのに死んでしまうよ。悲しいなあ、くやしいな。」という人麻呂のうらみが読み取れます。

あ～をのかなもじを1回ずつ使い、悟りを開く文章を書くだけでもすごいのに、そこにこんな暗号を埋め込むとは、人麻呂の賢さを改めて知ることができますね。

さて、人麻呂は飛鳥の都(奈良県南部)のお役人をしていたので、ばく大な財産をもっていました。それが、ある日突然地方に飛ばされることになり、大きな悩み事がでてきました。それは、この財産を地方にまでもっていけないことです。

そこで、人麻呂は、この財産を飛鳥の山に埋めることを思いますが、問題はそのありかをどうやって書き残しておくかなのです。一体、どのような文章書いたと思いますか？

そう、みなさんの予想通り、その財産のありかも人麻呂は「いろはうた」の中に暗号として埋め込んだらしいのです。しかし、この第2の暗号はまだ誰も解いていません。今も人麻呂の財産は飛鳥の山のどこかに眠っていると考えられています。いったい、このいろは歌をどう読めばその財産の場所は出てくるのでしょうか？みなさんで推理してみてください。(なお、今回のお話は、井沢元彦の「猿丸幻視行」をオマージュしてデザインしております)

今日も最後まで聞いていただき、ありがとうございました。